

チャレンジ文学館	チャレンジ文学館		
	幼児		12人
	小学生		1159人
	中学生		1372人
	高校生		25人
	大人(大学生を含む)		65人
参加者合計			2633人
読書会	山崎方代「青じその花」	5 / 2(日) 研修室	12人
	太宰治「斜陽」	6 / 19(土)	18人
	芥川龍之介「侏儒の言葉・西方の人」	7 / 18(日)	10人
	村上春樹「神のこどもたちはみな踊る」	8 / 28(土)	15人
	深沢七郎「言わなければよかったのに日記」	9 / 19(日)	9人
	井伏鱒二「山椒魚」「へんろう宿」「掛持ち」	10/16(土)	14人
	樋口一葉「十三夜」「うつせみ」	11/14(日)	10人
	保坂和志「プレーンソング」	12/12(日)	11人
	山本周五郎「五辨の椿」	1 / 29(土)	10人
	林真理子「初夜」	2 / 20(日)	10人
参加者合計			119人
ジュニアインターシップ (就業体験受け入れ)	高等学校 2校	7/28～7/30 3日間	4人
	中学校 4校	8 / 3 1日間	8人
	中学校 1校	10/21 1日間	3人
博物館学芸員実習	大 学 3校	7/6～7/11 6日間	4人
参加者合計			19人
山梨の文学解説講座 (講師派遣) (一般・学校)	小学校 1校		
	中学校 2校		
	高等学校 3校		小中高特 1146人
	一 般 23回		一般 1593人
参加者合計			全2999回 2739人
文学教室	展示解説		
	小学校 20校		
	中学校 30校		
	高等学校 12校		
	適応教室 2校		
	大 学 4校		小中高特 3058人
	一 般 24回		一般 389人
参加者合計			全92回 3447人
そ の 他	NHK朗読シアター(共催事業)	5 / 22	350人
	NHKラジオ文芸選評(共催事業)	6 / 19	259人
参加者合計			609人

(5) 刊行物の記録

① 山梨県立文学館館報 (A 4版8頁) 寄稿文及び資料翻刻一覧

81号 2010(平成22)年6月20日発行

【寄稿】 今、気になっていること 中野三敏(九州大学名誉教授)

【資料翻刻】 井伏鱒二 鈴木魚心宛書簡

1974年9月25日(封書)／1976年7月17日(封書)／1976年7月31日(封書)／

1978年9月8日(封書)／1978年10月5日(封書)

82号 2010(平成22)年9月10日発行

【寄稿】 井伏鱒二という文学 中村明(早稲田大学名誉教授・山梨英和大学教授)

【資料翻刻】 小川芋銭 雨宮庸蔵宛書簡

1930年10月15日(封書)／1931年2月24日(葉書)／1931年8月19日(封書)／

1933年4月9日(封書)／1933年4月16日(封書)／1933年4月18日(封書)

83号 2011(平成23)年3月20日発行

【寄稿】 紅野敏郎さんの教え 近藤信行(当館館長)

呼吸の意匠 竹西寛子(作家)

② 企画展図録 寄稿一覧

山崎方代展 右左口はわか帰る村

方代の嘘のまこと

大下 一真

ふるさとという主題

三枝 浩樹

方代のヴィヨン

阿木津 英

方代さんの思い出

小林 晴一

方代さんとのえにし

根岸 侑雄

方代の「おる」ところ

馬場あき子

井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡 その四十年

井伏山甲州口

近藤 信行

含羞と節度の彼方に

竹西 寛子

井伏鱒二の手紙

東郷 克美

親交あざやかに

廣瀬 直人

定住と移動

紅野 敏郎

③ 資料と研究 第16輯 平成23年3月31日発行 A5版200頁

平成22年度企画展「山崎方代展 ^{うぼくち} 右左口はわが帰る村」

「井伏鱒二と飯田龍太 往復書簡 その四十年」をめぐって

講演会「方代の歌の魅力」(抄録)

馬場あき子

山崎方代の合同歌集『現代』草稿ノート

中野 和子

井伏鱒二と甲州 (付表: 井伏鱒二・甲州関係作品一覧)

東郷 克美

芥川多加志、その後

天満ふさ子

随想 甲州来遊の文人たち (一)

近藤 信行

太田黒克彦著作解題

井上 康明

河野一作句帖「聞每集」(文化九年) 翻刻

高室 有子

芥川龍之介〈或日の大石内蔵之助〉草稿他

保坂 雅子

中村星湖作成スクラップブック^⑱^⑳

三澤麻須美・望月 洋子・小林 幸代

樋口則義の『気俣日記』一勘定組頭に仕える八代吉の記録及び翻刻

野口 碩

(6) 閲覧室の運営

① 閲覧室の設置

山梨県立文学館設置及び管理条例と施行規則に基づき、県民・文学館来館者への資料・情報の提供及び調査・研究に対する助言を主な事業として閲覧室の運営を行っている。

② 閲覧室の利用

ア 利用時間

平日 午前9時～午後7時

土・日・祝日 午前9時～午後6時

※休館日は閉室

イ 利用手続

書庫内の資料を利用する場合は、「閲覧カード発行申込書」に必要事項を記入し、「閲覧カード」の交付を受ける。閲覧を希望する資料名を「文学資料等閲覧承認申請書」に記入し、受付に申し込む。

ウ 利用対象

文学資料などの調査・研究、読書を目的とした利用とする。

③ 閲覧室の業務

ア 所蔵資料の閲覧・情報提供

閲覧室では文学作品・文学研究書を中心とした図書、逐次刊行物、県内外文芸誌、新聞などを収集し、利用に供している（一部禁閲覧資料あり）。

県内新聞はマイクロフィルム、明治期刊行物はマイクロフィッシュにより提供している。

また、画像情報システムにより、特殊資料の芥川龍之介資料、樋口一葉の「たけくらべ」再掲本原稿（複製）、中村星湖「少年行」原稿、山崎方代草稿など実物の閲覧が困難な資料を、画像で閲覧に供している。

イ 文献検索システムによる書誌情報の提供

館所蔵の資料は書誌情報をデータ化し、コンピュータ端末で、来館者が自由に検索できるようになっている。

図書データは通常の書誌情報に加え、内容細目もデータ化し、全集・シリーズに収録されている個々の作品名、作者名からの検索も可能である。

逐次刊行物については、一部のものは所載論文名、作品名、執筆者名からの検索もできる。

平成23年1月にシステムの更新を行ない、より高速で、多角的な検索、情報提供、業務の効率

的な処理が可能となった。

ウ 調査・相談業務（レファレンス）

閲覧室に寄せられた調査・相談・照会などの依頼に対しては、文献に基づき、司書、学芸員などが対応している。質問は、電話、文書、FAX、電子メールでも受け付けている。

エ 複写サービス

文学館では著作権法に基づき、一部の禁複写資料を除き、所蔵資料の複写サービスを行っている。

図書・逐次刊行物に加え、県内新聞のマイクロフィルムや、明治期刊行物のマイクロフィッシュによる複写サービスも行っている。

オ 朗読テープの利用

閲覧室では視聴資料も利用できる。

朗読テープは文学関係のものを中心に所蔵し、コーナーを設けて利用に供している。

カ 個人研究室・共同研究室の利用

閲覧室内には個人研究室2室、共同研究室2室が併設されており、個人及びグループでの研究・研修などの利用に供している。（有料）

キ ビデオブースの利用

文学館の紹介及び文学資料の情報を多角的に提供するため、閲覧室にビデオブースを併設し、文学館作成のビデオを中心に文学関連の映像資料を提供している。

ク 資料紹介

所蔵する資料は、ほとんどが閉架であり、直接来館者の目にふれることは少ない。そこで収蔵されている図書・雑誌の紹介を目的として、テーマを決めて閲覧室内で「資料紹介」を行っている。

ケ 書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説している（年2回開催）。

コ インターネット利用

平成14年度から、当館のホームページを開設し、利用案内、展示、講座・講演会、館所蔵の資料検索などの情報提供を行っている。また、ジュニアガイドを設けて、小中学生にも県内出身・ゆかりの文学者をわかりやすく紹介している。

平成15年度からは、OPAC自動横断検索システムに加盟し、県内外の大学図書館、県内公共図書館、国立国会図書館や類縁機関と当館の所蔵資料を一度に検索することが可能となっている。

閲覧室事業実施状況

◆ 「閲覧室資料紹介」

回	タイトル	展示期間
100	「明星」創刊110周年	平成22年 4月13日～7月4日
101	親子で読む名作－山梨の児童文学作家たち－	7月6日～9月17日
102	井伏鱒二の世界	9月18日～12月12日
103	新田次郎－歿後30年－	平成22年12月14日～平成23年4月17日

◆ 「文学者の命日にちなんだ資料紹介」

タイトル	展示期間
李良枝 (5/22ナビ忌)	平成22年 5月1日～5月23日
太宰治 (6/19桜桃忌)	6月4日～6月27日
芥川龍之介 (7/24河童忌)	7月14日～7月25日
飯田蛇笏 (10/3蛇笏忌)	9月17日～10月12日
樋口一葉 (11/23一葉忌)	11月12日～11月28日
山本周五郎 (2/14周五郎忌)	平成23年 2月4日～2月25日

◆ 「企画展関連資料紹介」

タイトル	展示期間
春の企画展 山崎方代展関連資料	平成22年 5月1日～6月27日
両館共同特別展 くじらぐもからチックタックまで関連資料	平成22年 7月25日～8月29日
美術館特別展 小林一三の世界展関連資料	平成22年 10月30日～11月30日

◆ 書庫見学

実施日	参加者
平成22年6月26日	38名
平成22年11月20日	57名



資料紹介「新田次郎－歿後30年－」



書庫見学（平成22年11月20日）